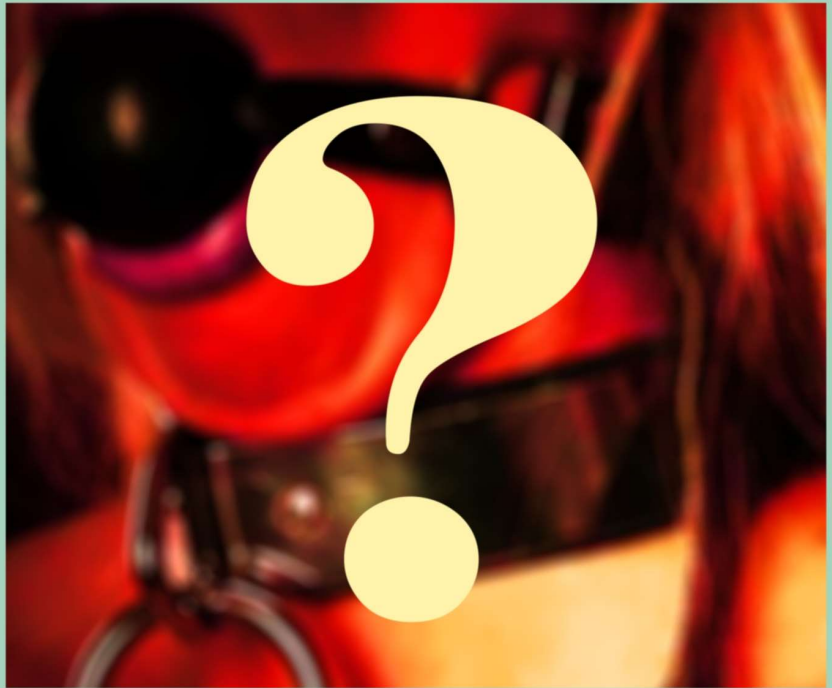


SAMPLE 試読用

# 奴隸未満

どれいみまん



あんぷらぐ  
荒縄工房

SAMPLE 試読用

S  
M  
小説

# 奴隷未満

あんぷらぐ著

荒縄工房・発行



本作品はすべてフィクションであり、実在する人物・地名・団体とは一切関係ありません。また、特定の個人、団体、宗教、人種、性別などを誹謗中傷する意図はありません。

あんぷらぐ

S M雑誌に「仲ゆうじ」名でS M小説を執筆して作家活動をスタート。その後編集の仕事に携わる。九〇年代よりネットで複数のペンネームで小説を執筆。二〇一一年「荒縄工房」より「あんぷらぐど」名義で独自の自虐的S M小説、伝奇S M小説などを発表。二〇一九年「あんぷらぐ」に改名。東京在住。

SAMPLE 試読用

# 目次

なんでも言うことを聞きます 6

下女として 72

オブジェ 94

命令 106

うれしい 127

彼との一夜 148

初叩き 169

追放 190

裏目 211

危険な匂い 230

死ぬ！ 240

SAMPLE 試用

貴史様 250

突撃！ 269

クセだらけ 301

崩壊遊戯 326

暴走せよ！ 359

奥付 425

SAMPLE

試用読試

なんでも言うことを聞きます

岡本貴史。この男に出会ったとたん、わたしの人生は変わりました。

アイドルに夢中になったり、同級生や先輩に夢中になっていたなんて、まったく子どもの遊びのようなものだったとしか思えません。

岡本貴史。彼こそ、わたしの男。わたしのご主人様です。この人になら、どうされてもいい。いえ、酷い目に遭わされたい。わたしの体をボロボロにしても、彼にわたしのことを何時間も見てほしい。触ってほしい。いじってほしい……。

SAMPLE

試読用

彼のことを思うだけで、アソコが熱くなつてジユク  
ジユクして、気持ちよくなつてしまふのです。彼に見  
られたら、彼に触られたら、彼に叩かれたら、彼に：  
…。なにをされてもいい。それだけで、わたしは何度  
も何度も最高に幸せになれるのです。

この間違つた恋が、どうなるのかはわかりません。

結末がどうなるか。それが知りたい。

まったく予測できません。いえ、少しは予測できま  
す。ふられて終わり。たぶん、そうなるんでしよう。  
だけど、違ふかもしれない。

なんとか、その結末を変えたいのです。最後はダメ  
かもしれないけど、それを少しでも先延ばししたい。

SAMPLE 試読用

ちよつとでも幸福でいたい。

この気持ち、なんとかかしてほしい。

だからいま、こうしてすべてを記録しようと思ったのです。

最初の一步。わたしは、貴史様にお手紙を書きました。以下、その支離滅裂な手紙を恥を忍んで晒します。男性って、こんな手紙を女子から貰って、どん引きでしようか？ それとも……。

—— 貴史様

はじめてお手紙を書かせていただきました。万結（まゆ）と申します。

SAMPLE 試用試



いきなりですが、わたしは貴史様の下女、もしくはは  
奴隷にしてほしいのです。わたしのご主人様は貴史様  
しかいません。――

ここまで書いて、二度、オナニーしました。

どうしても我慢ができなかつたのです。貴史様、と  
書くだけで体がおかしくなつていくのです。

――たしかにわたしはまだ若いです。貴史様の日常で  
邪魔になることなく、必要なことをしてさしあげるだ  
けの経験はないかもしれませぬ。はっきり言えば、な  
にもできない女かもしれませぬ。ですが、努力します。

SAMPLE 試読用

なんでもします。どんなご命令にも従います。あなた様の、貴史様の奴隷になりたいです。――

ああ、これを書くだけで何日かかったことか。どれ・い。変換すればすぐ「奴隷」となりますが、この文字はわたしにとってとても大事です。頭の中はそれでいっぱいなのです。

貴史様の奴隷。「奴隷」とボールペンで紙に書いて、何度も何度も書いて、千切って捨てました。女の又。士に示す。ヨに水が突き抜けたみたいな。逮捕の逮の……。そんなことはどうでもいいのです。

悪いわたしに罰をください。いちじく浣腸を一個、

SAMPLE 試用

お尻に注入。熱い……。ぶわっと汗が流れ出します。  
続きを書きます。

——どうして貴史様の奴隷になりたいのかをお話します。わたしはご存知のように予備校の中では目立たないでしようし、来年には成人式なので予備校に通う女子の中では年齢も高い方だと思います。

両親は事故でわたしが小学生のときに天国へ行ってしまう、伯父の家で育ちました。父の兄です。父よりもマジメです。そこで居候です。なにも不満のない生活で、優しくしてくれます。

でも経済的には厳しいから、高校卒業後に就職する

SAMPLE 試読用

つもりでした。そう簡単に働くところはなく、伯父の工場でアルバイトとしてほとんど無給ですが、事務の仕事は叔母と一緒にやっていました。

それが突然、「やっぱり大学、行きなさいよ」と叔母に言われて、「お金のことはともかく」とまで言ってもらったのです。工場が以前よりは忙しくなってきた、人を増やして対応するぐらいになってきたから、経済的に少し余裕ができたようです。

あと、これはこっそり伯父たちの会話を聞いてしまったからですけど、「万結がうちの社員と結婚でもしたら、あとあと面倒になるから……」と言っているのです。――

SAMPLE 試用読試

漏れそうになってトイレに行ってきました。罰として、プラスチックの定規でお尻を十発、叩きました。ここからは、下半身は裸で書きます。毎日、書き終えるまで、下半身は裸です。

——つまらない話を書いています。わたしのすべてを知っていただきたいのです。貴史様の奴隷としてふさわしいことが、きつとわかっていただけるとしよう。伯父夫婦には中学生の男の子が二人いますので、わたしは邪魔なのです。社員が勘違いをしてわたしと結婚をすれば会社の跡取りになれるかもしれない、役員

SAMPLE 試用試

になれるかもしれないなどと思ったりするとマズイのです。おそらく、実際にわたしのことをなんとかしようとしている社員がいたみたいですよ。

わたしはお世話になった伯父たちに迷惑をかけたくないので、大学はともかく、独り立ちしなければなりません。

そんなことを考えていたところ、貴史様にお会いしたのです。

ウワサは聞いております。貴史様は女性に困っていらっしゃるしやらないと思います。肉体的にもわたしはそれほど目立つ方でもないですし、魅力の点でも大したことはないと思いますけど、ぜひ、わたしのことを見て

SAMPLE 試用試

いただきたいのです。お話だけでもできる機会がありましたら幸せです。

どうか、万結を貴史様の奴隷に加えてくださいませ。

何日も考えたにしては、支離滅裂なトンデモな感じ  
です。個人情報を必要以上に開示して、貴史様にとつ  
ても迷惑でしょう。だけど、ウソは一つもなく、偽り  
のない気持ちです。

これを読むと、まるで就職先でも探すように貴史様  
の元へ行きたいと言っているように見えますけど、た  
ぶん、それもあります。

SAMPLE 試読用

大学へ入ることが出来たとしても、勉強する気はあんまりないので。会社に入って働きたいという気もないのです。

怠け者ではありません。なんでもする気はすごくあるのです。伯父の会社でも、教わらなくても一通りの事務は覚えましたし、それなりに役に立っていたので、社員の中でわたしに目を付けた人も出たのでしよう。

どうせ一生懸命やるのなら、誰かのためにがんばりたいという気持ちが強いのだと思います。貴史様にお会いしたとたん、そういう気持ちがとても強くなつてしまい、自分でも驚いています。

いえ、ここには正直に書きます。奴隷にしていただ

SAMPLE 試用読試



いて、悦楽の沼に沈んでいきたいのです。どっぷりと。手紙には携帯電話とメールアドレスを添えています。「先生、これ、読んでください」と渡すことさえできれば、そこからわたしの人生は大きく変わる可能性があります。あります。

日付は入れないでしつかりした封筒に入れると、毎日、予備校へ持って行きました。

でも、なかなか渡せません。

勇気がないので。

予備校に行きはじめてすぐ。「あの先生さ、すごいウワサがあるんだよね」と男子や女子が囁いているのを聞いてしまったのがすべての始まりでした。

SAMPLE 試読用

予備校の裏側に、近くの大学生や予備校生、専門学校の学生などが利用する古い喫茶店があります。古いというより、ボロい店です。「名曲喫茶ロダン」。店内にはクラシックばかり流れています。名曲を聴く人は少なく、中二階もある広いお店だから大人数で入ることができて便利なのです。みんな利用しているようです。大騒ぎをすると注意されることもあるようですが、学生仲間しか店内にいないときは、ぜんぜん問題なく、むしろそういう時間が長いのです。

わたしはこのサラスパが好きで、よく一人で利用しています。アボカドをトツピングします。

すると、予備校でよく見かける人たちが先客でいて、

SAMPLE 試用

盛り上がっていきたりします。うらやましいです。男女ともにハツラツとして。未来がいっぱいありそうです。いえ、この人たちにはピカピカの未来しか見えていないのです。

「え、どんなウワサなの？　ちよつとカツコいい先生でしょ」

「ヤバイんだってさ」

「どういう意味で？」

「女性関係」

「モテモテ？　それとも猥褻教師？　変態とか？」

「それ全部かもね」

「モテモテで猥褻で変態？　なにそれ」

SAMPLE 試用試

「なんかね、ある子が先生に声をかけたら、『付き合い  
たいのか』って言われたんだって。それで、『はい』っ  
て言ったら、『ぼくの奴隷になりたいの？』だってさ」  
「えー、それマジ？」

「ヤバイじゃん。そんなの講師で許されるの？」

「断り文句じゃないのかな。面倒だからさ」

「誰か、試しに奴隷になってみなよ！ そうしたらわか  
かるからさ」

そこで爆笑。

わたしの大好きな貴史様が笑わっていて、自分のこ  
とのように悔しくなり、涙が出てしまいました。

だけど、もし、貴史様から「ぼくの奴隷になりたい

SAMPLE 試用試読

の？」なんて言っていたら、わたしならすぐ

「はい」と返事をしたに違いないと思ったのです。

そうなんだ、わたしってそれが望みなんだ。

自分でもおかしいですが、それからはずっと、憧れの男性というだけではなく、憧れのご主人様になったのです。

毎日、毎日。そんなことを考えてはオナニーしたり、妄想にふけて自分を叩いたり、浣腸したりしているうちに、それがあの手紙になっていくのです。

次は、これを渡さなくてはなりません。

ぜひ、渡したい。

だけど、今日もダメだった……。

SAMPLE 試用試

どうか勇気をください。勇気が欲しい……。

ゴールデンウィークになっても予備校はやっていきます。伯父の会社は休みで、社員たちと旅行へ行くと聞いています。景気はとてもいいらしく、グアムへ行くそうですが、わたしは誘われても行きません。

「予備校があるから」と言うと、伯父さんたちはすごく喜んでくれて「そうだな、がんばれよ」とお小遣いまでくれました。

期待されているのはわかりますが、それはわたしが自立する一歩として喜んでいるのです。

四月の下旬。

どんどん月日が過ぎていきます。

SAMPLE 試読用

学生たちのウワサでは、貴史様は人気の国語の先生ですが、引く手あまたで、もつと有名な予備校へ移るのではないかと言われています。

もしそうなら、ますますチャンスはなくなります。その有名予備校は、入るだけでも大変で、何百人も東大合格者を出しているそうなので、わたしのように「とにかくどこかの大学へ入ろう」という感じの人間が行くところではありません。

どうしようかな、と思って名曲喫茶ロダンの中二階で一人、サラスパを注文し、ぼんやりしていました。

「あろう」

サラスパが来たのです。持ってきたのは、いつもこ

SAMPLE 試用試

ここで見かける男子でした。背が高く大学生のようです。店主であるおばあさん、その娘さんとも仲がいいらしくレジのところでも楽しそうに話をしている光景をよく見かけました。

「ここ、いいですか？ 一緒に食べてもいいですか？」

午後二時ぐらいになると、一瞬、中二階はほとんど客がいなくなります。

賄いの食事なのでしょう。エプロンを外して、彼は隣の席に座ってサラspaを食べ始めました。

わたしもゆっくり食べます。物思いにふけりながら、時間をかけて食べるのがクセなのです。

SAMPLE 試読用



「このサラスパ、おいしいですよね」

彼が言いました。ほかに客もいないから、わたしに言っているのでしょうか。

「え？ はあ。はい」

妙な返事をしてしまいました。

「いつも一人で来てますよね？ 大学生ですか？」

「いえ。予備校の……」

「そうか、だから大学では見かけなかったんだ……」

彼はため息をつき、食事を続けます。

なんだかガツカリしているような雰囲気。わたしのせいでしょうか。

「高校生なんですか？」

SAMPLE 試読用

奥付

お読みいただき、ありがとうございました。

二〇二二年八月刊行 第一版

著作権 あんぷらぐど（荒縄工房）

荒縄工房の情報は下記サイトへ

● ブログ「荒縄工房」

● ホームページ

● 荒縄工房 S M 研究室

● 今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中。

SAMPLE 試読用